

### 塩飽部隊（香川県丸亀市）

- 幻の唐辛子「香川本鷹」の生育過程の実地体験を通じ、香川本鷹レシピ集を作成、香川本鷹カレーを開発。
- 離島で初めて竹林伐採を実施し、カブト虫育成のための場所を整備。また、地元養護学校から提供された花の苗を休耕田に植栽し、フェリー乗り場から島の中心部までフラワーロードを形成。
- 県内在住外国人有志が集まり、島民の生活体験を通じ、手島プロモーションビデオを作成。
- 2019年春には2000kmを渡る蝶「アサギマダラ」が好物のフジバカマを植栽。
- 外国人 You-Tuber による手島の動画配信中。



島民と京大生による竹林伐採

### 松山東雲短期大学しののめベジガール（愛媛県松山市）

- 愛媛県産品を使用した朝食レシピの考案。カゴメ(株)と連携した野菜スムージー・野菜スープを考案。また、野菜を使用したベジスイーツを開発。
- マルシェ等に出店し、野菜スープやベジスイーツの販売を通して食育に取り組む。
- 小学生の親子を対象に、大豆の播種から収穫の農業体験と、収穫した枝豆を使用したオリジナルレシピの調理を実施。



カゴメ(株)イベントで野菜・朝食摂取PR

### 愛媛県立丹原高等学校園芸科学科 GAP 班（愛媛県西条市）

- GAP 認証の取得に取り組み、審査に必要な書類については生徒自ら作成。GAP 認証に係る審査は公開し、取組の発信を行った。
- GAP 認証取得による取引拡大と当校の PR のため、台湾への輸出に取り組み、生徒 20 名による台湾でのプロモーション販売を行った。



GAP 審査(現地調査)

### 愛媛県立伊予農業高等学校生活科学科食物班（愛媛県伊予市）

- びわ葉パウンドケーキ・ソラマメカレー・伊予風土パスタ等地域食材を使用したレシピの開発。
- 農業の授業で野菜について学習していることから、地元農家から野菜を提供してもらい、子ども食堂で料理を提供。
- 他校へも地域食材を使用したレシピを提供。海外からの視察を受け入れ、地域食材を使用した料理の試食を行う。



子供食堂への参加  
—地元農家との連携—


### 沢渡茶生産組合（高知県仁淀川町）

- 「互いに助け合ってお茶づくりを守る」との思いから「ブレンドからブランドへ」を合い言葉に、荒茶の生産に加え、仕上茶（沢渡茶）も販売。
- 消費者を対象にした茶摘み体験や次世代を担う小学生等に出前授業を実施。
- 若手組合員が（株）ピバ沢渡を設立し、仕上茶、お茶を活用したスイーツを販売。スイーツは香港へ輸出。



お茶摘み体験ツアー

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第7回選定) 応募団体 一覧 (広島県)

No.	選定地区	部門	市町村	団体名	該当する取り組み		
①	奨励賞	コミュニティ	三原市	三原市漁業協同組合	農林漁業、 農村文化体験	伝統の継承	6次産業化
②		個人	尾道市	菅 秀和	環境保全・ 景観保全	企業との連携	講師、ワーク ショップ開催
③		コミュニティ	三次市	川西自治連合会	農林漁業、 農村文化体験	移住・定住	雇用
④	奨励賞	個人	三次市	合同会社安田農園 代表社員 安田 剛	農林漁業、 農村文化体験	環境保全・ 景観保全	6次産業化
⑤		コミュニティ	北広島町	株式会社 ハートランドひろしま	農福連携	—	—



1

みはら  
**広島県三原市**

農林漁業、農  
 村文化体験

伝統の継承

6次産業化

みはらし  
**三原市漁業協同組合**

～三原沖、恵みの海で育む伝統の蛸壺漁。～



蛸壺漁の風景



三原やっさタコと組合長(漁業者)

**経緯**

- 三原市沖の海は江戸時代より蛸漁の盛んな場所である。
- 三原のタコは全国的な知名度が低く、魚価が水揚量に左右され、漁業所得が安定しない。
- 漁協がタコを買い取り、タコのブランド化を進め、漁業所得の安定等を目指すこととした。

**取組内容**

- 伝統の蛸壺漁で漁獲したタコを『三原やっさタコ』の名で商標登録。
- タコは生き締めにし、漁協加工場で30分以内に真空処理して、急速冷凍する。このこだわりのタコで6次産業化に取り組む。
- 『三原やっさタコ』を利用する飲食店にオリジナル提灯の貸与等を行っている。
- 漁業体験等を行うとともに、地元学校給食への食材提供も行っている。

**活動の効果**

- 6次産業化に取り組むことにより、組合員の所得向上や加工場職員の雇用拡大等につながっている。
- オリジナル提灯の貸与等により、飲食店の売り上げ増加にも貢献。
- 単独漁協で始めたタコ事業が商いとして成り立つようになったと手ごたえを感じている。

**応募団体からのアピール・メッセージ**

タコ販売の拡大、新規就業者獲得への取組を行い、蛸漁師の技を継承していつまでも「三原やっさタコ」がブランド蛸として食べ続けられるよう努力していきたい。

三原市古浜1-11-1 Tel: 0848-62-3056

2

おのみち  
広島県尾道市

環境保全・  
景観保全

企業との連携

講師、ワーク  
ショップ開催



かん ひでかず  
菅 秀和

～レモンは食べて美味しいフルーツである～



レモンサワーセミナー



観光複合施設でマルシェ企画提案

### 経緯

○新規就農して農業の啓蒙活動を兼ねた営業活動をどう取り組んでいくか考えた時、「誰でも知っているレモンのあまり知られていないレモンのこと」を発信しながら、美味しさや使って楽しい方法を伝えていこうと考えた。

### 取組内容

- 営業活動を兼ねたブランディングの手段として小売り店や飲食店にワークショップやセミナー企画を提案。
- コロナ禍を踏まえ、ネット型農業学校の講師を受け、就農希望者へ自身の経験を通して、考え方や方法論を伝える。
- 規模拡大時のイニシャルコストの問題を解消するために、レモンを使った商品開発や業態開発を飲食店や外食企業に提案。
- 微生物資材を多用した土作り等に取り組む。

### 活動の効果

- 就農時には3件だった顧客が3年目には約300件を超え、メディアにも出演。
- ネット講義の受講生の中から研修希望者が数名あり、受講案内だけでも自身の取り組みの様子を広く発信でき、農業相談や取引の問い合わせが増えた。
- 農地面積は拡大し、売り上げも増加している。

### 応募団体(者)からのアピール・メッセージ

農業・農産物であっても相手があって成立する産業である。6次産業においても、目標を共有できなければ企業連携も難しく、1次産業が活かされない。このような理解が農業発展につながる。

尾道市瀬戸町福田796 Tel: 090-1012-6974



3

みよし  
広島県三次市

農林漁業、農  
村文化体験

移住・定住

雇用

かわにし  
川西自治連合会

～住民自治で田舎暮らしが楽しいまちづくり～



ほしはら山のがっこう棚田での田植体験



君のいるまち川西の映像に使った人文字

### 経緯

- 人口減少とともに地域内にあった産業は衰退し、買い物する場所さえもなくなっていた。
- 地域の将来をどうデザインすれば、地域に誇りを持ち、住民が安心して暮らせるかが最重要課題となった。
- ビジョン策定委員会を立ち上げ、地域の将来像を自らの手で描いていくこととした。

### 取組内容

- 廃校を活用した体験交流施設「ほしはら山のがっこう」の取組を地域全体で連携した取組とし、ふるさと自然体験塾(食農教育)、都市農村交流イベントを実施。
- 平成29年、買い物や外食ができる生活拠点「川西郷の駅」を開設。
- 委員会が中心となり、川西マスコット、川西PRソング&動画等を手作りし、SNS等で発信している。

### 活動の効果

- 体験交流施設での取組により、関係人口の増加に繋がっている。
- 「川西郷の駅」は、ここに来れば誰かと会える場所、小さな地域資源循環が促される場所としてさらなる発展を目指している。
- 「手づくりでチャレンジし続ける地域」「風通しのいい楽しそうな地域」に魅力を感じて移住家族が増加している。

### 応募団体からのアピール・メッセージ

さらに住みよい地域作りを行い、希望に満ちた地域になるように努力していく。また、良き伝統は残しつつ、新たな技術や知見も導入するアグレッシブな地域へと変貌させていきたい。

広島県三次市三若町2651-1 Tel: 0824-69-2526

やすだのうさん  
合同会社安田農産 代表社員 やすだ つよし 安田 剛

## ～集落農家と連携した精麦もち麦の販売促進～



安田代表、右は妻で会社役員とオペレーターを担う



もち麦生産販売連携協議会

## 経緯

- 祖父の農業に取り組む姿勢から、「農業は儲かる仕事」というイメージが定着。農業後継者になるため、帰郷。
- 創造的で挑戦的な持続可能農業経営基盤のためには、法人化が必要であるとの思いから平成27年合同会社を設立。

## 取組内容

- 遊休農地等を利用してもち麦を栽培。「石原集落もち麦生産販売連携協議会」を設立。
- 水田依存型の集落農業からの突破口と精麦もち麦のブランド化を目指し、平成30年、6次産業化総合化事業計画の認定を受けた。
- 令和元年、精麦施設等を整備し、市内外の農業者からの精麦委託に対応している。
- 地元の道の駅と連携し、もち麦を使用した創作料理をメニュー化。

## 活動の効果

- 遊休農地へのもち麦作付面積は年々拡大し、集落環境保全、里山の再生にも繋がっている。また、もち麦は日々の食生活や贈答品、返礼品としての需要も拡大している。
- 隣接の過疎高齢化集落に中山間協定組合を組織し、高齢住民の生きがい、社会参加に繋げることで、高齢者の交流が活発になった。

## 応募団体(者)からのアピール・メッセージ

一次産業の活性化なくして、地域活性化はないとの思いで、3方「顧客・地域・自社」よし経営を指針に行っている。

## 株式会社 ハートランドひろしま

～農福連携、地域に貢献、皆で成長～



猛暑でも空調服を着て、ホウレンソウの収穫



組合員交流会のトウモロコシ収穫

## 経緯

- 生協ひろしまの組合員が安心して利用できる農産物を供給するためには、農業生産を身近に感じ、県内農業の実情を理解できる取組が必要と考え、農業に新規参入。
- 障がい者の雇用促進や社会参加を通じて地域社会での役割を果たしたいという思いで、農業と福祉の連携を始めた。

## 取組内容

- 就労継続支援A型事業所として、野菜の栽培から販売まで行う。
- 省エネ・環境にやさしいフィールド養液栽培で、ホウレンソウを通年栽培。利用者が整地、収穫、選別、袋詰め等の全作業を行う。
- 生協ひろしまの組合員や家族がトウモロコシや大根等の植付や収穫作業を体験できる場として、組合員交流を年8回企画。

## 活動の効果

- 就労継続支援A型事業所として、設立時(H23年)10名の利用者からスタートし、現在は14名に増加。平成29年度より4名が一般就労することができ、うち2名は地元企業で就職。
- 組合員交流で農業体験することにより、農業・福祉への理解等が図られている。

## 応募団体からのアピール・メッセージ

将来的には、利用者の成長に応じて栽培面積を増やし、増加する耕作放棄地の解消を目指していきたい。また、利用者がハートランドでの経験を活かせる企業への就職ができるよう支援していきたい。